

『安政津波の碑』

黒潮町入野松原、加茂八幡宮の境内にあります。

安政元年11月5日(1854年12月24日)午後4時過ぎ、突如大激震が起こり、次いで大津波が押し寄せました。

碑は安政4年後世への警告を念じて建立されたもので、蛸瀬川辺より採取した碎石に碑文が刻まれています。

※昭和47(1972)年大方町文化財指定。



碑文

嘉永七甲寅の歳十一月四日昼微々の震動有潮海濶に流れ溢る土俗是を名て鈴波と云ふ是則海嘯の兆也其翌五日朝土俗海濶に至に満眼の海色洋々として浪静也欣然として家に帰り平素の業を事とす時に申剋に至て忽大震動瓦屋茅屋共崩屋と成満眼に全家なし氛埃濛々として暗西東人俱に後先を争ふて山頂に登山上より両川を窺見るに西牡蠣瀬川東吹上川を漲り潮正溢る是即海嘯也最初潮頭暖々として進第二第三相追至第四潮勢最猛大にして実を肝を冷す家の漂流する事数を覚す通計に海潮七度進退す初夜に至て潮全く退く園は砂漠となり田畛更に海と成る当時震動する事劇しく曾聞宝永四丁亥歳十月四日

も同然今に至りて一百四十八年今此石此邑浦の衆人勞を施して是を牡蠣瀬川の辺より採て此記を乞来是を後人に告んが爲ならん鈴浪果して海嘯の兆なり向來百有余年の後此言を知るべき也

安政四年丁巳六月朔

野並晴識

入野浦若連中

※碑文の冒頭に「嘉永七年十一月四日」とありますが、この年の10月27日に「安政」に改元されています。

■海濶(海進)

海面の上昇、あるいは陸地の沈降によって海が陸に入り込んでくることです。

■鈴浪

前日(23日)には東海道沖を震源地とした強い地震があり、黒潮町

でもこの日の朝方震動があったと記録されています。

またこの地震による津波の余波が鈴浪として町の沿岸に波及しており、碑文にもあるように当時は鈴浪が地震の前兆のように言われています。

小野桃斎(伊田)の書に「嘉永七甲寅年十一月四日午前七時極々微小の地震ありて漣(こころみ)「すずなみ」の意に用いたらしい」と云ふもの入来り、磯辺に干したる物など流るるとて騒ぎたり」とあります。

翌5日(24日)に起こった安政の大地震に伴う大津波の余波は、逆に遠く東海道にも及んでいます。

■海嘯

河口に入る潮波が垂直壁となつて川を逆流する現象です。潮津波とも呼ばれます。

昭和初期までは、地震津波も海嘯と呼ばれていました。

問 教育委員会文化振興係

(大方あかつき館内)

☎ 43-21110(直通)